

# 広報

第15号

2015年  
(平成27年) 8月

## 目次

ご挨拶 .....	1
新任教授・准教授紹介 .....	3
受賞 .....	6
国際交流 .....	10
行事紹介 .....	12
歯学研究科・教室紹介 .....	17
特別寄稿 .....	20
北海道大学病院歯科診療センターのご案内 .....	25
編集後記 .....	27

北海道大学大学院歯学研究科・歯学部・歯科診療センター



## 歯学部・歯学研究科の現状について



北海道大学大学院・歯学研究科長・歯学部長  
口腔機能学講座 口腔機能補綴学教室教授

横山 敦郎

北海道大学歯学研究科・歯学部・歯科診療センター広報誌15号をご覧ください。歯学研究科長・歯学部長の横山と申します。

北大歯学研究科・歯学部の現状についてご紹介させていただきます。

数年来行ってきた歯学研究科の耐震改修も昨年7月に終了し、研究室の引っ越しも終え、漸く新しい体制が整ったところです。C棟一階には、学生自習室、国家試験対策室とともにPBL (Problem Based Learning) のための部屋を7室配置しました。リフレッシュラウンジと北大生協の売店も完成し、3月末には披露会を行い、現在は学生および教職員にとって、まさにリフレッシュのための場となっています。C棟の2階にはポリクリ用実習室と技工室を新たに設けるとともに、60名が着座可能なカンファレンスルーム、シールドルームとともにヒトを対象とした研究を行うための臨床研究室を配置しました。C棟3階には、電子黒板、短焦点プロジェクター等の最新鋭のICT (Information and Communication Technology) を備えた多目的会議室、さらには多くの教員の共通の研究の場として活用するための探索医療研究室を設置しました。これらの施設と設備により、これまで以上に学生・大学院生教育の充実、臨床研究やトランスレーショナルリサーチといった研究の推進と新たな展開が可能となるものと期待しております。

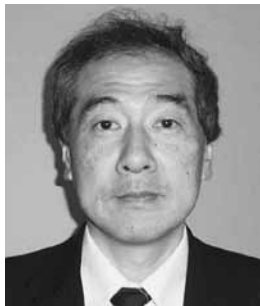
昨年、北海道大学はスーパーグローバル大学創成事業のトップ型13大学に選定され、歯学研

究科もその事業の一環であるトップコラボ事業に2件が採択されました。本年6月から8月にかけて海外から一流の研究者が歯学研究科を訪れ、シンポジウム、講演、セミナー等を行います。この事業は、今後更に国内外の学生・大学院生が北大に集うHokkaidoサマーインスティテュートとして発展する予定です。また、本年5月には、韓国江陵原州大学と部局間交流協定を締結し、10月には、韓国全北大学との5年に1回の学術交流記念行事が開催され、歯学研究科・歯学部の国際化は確実に進みつつあります。

最後になりますが、皆様もご存知の様に、北海道大学歯学部は昭和42年に設立された北海道大学の15学部の中で最も新しい学部ですが、あと2年で創立50周年という大きな節目を迎えようとしています。「北海道における歯科保健・歯科医療の向上をはかり、広く地域社会の発展に寄与する」という歯学部設立当時のミッションは、これまでに2,000人以上の卒業生を社会に送り出すことにより、達成してきたのではないかと思います。来年度から第3期中期計画が始まります。北海道大学歯学研究科・歯学部、歯科診療センターは、さらなる発展を目指して、新たなミッションである「国際性・独創性を持った研究者の養成、産官学の歯学研究拠点の形成、北海道における高度歯科治療の中核的役割」を達成するため、機構改革を進め、新たな研究教育体制を構築していきたいと思っております。

今後とも、北海道大学大学院歯学研究科・歯学部、歯科診療センターを宜しく申し上げます。

## 歯学部創立50周年を前にして



北海道大学大学院歯学研究科 副研究科長  
歯学部 副学部長  
口腔機能学講座 小児・障害者歯科学教室教授

八 若 保 孝

北海道大学大学院歯学研究科・歯学部・歯科診療センター広報誌第15号を、手に取ってご覧いただき、ありがとうございます。

昨年（平成26年）4月1日から、横山歯学研究科長・歯学部長のサポートとして、副研究科長・副学部長を拝命している八若保孝です。私は、この北海道大学歯学部の14期生であり、これまでずっと北海道大学で歯学に関する教育と研究、ならびに歯科の臨床に携わってきて29年目になります。専門は、小児歯科学（子どもの歯科治療が中心）と障害者歯科学（障害を持った方の行動調整から歯科治療が中心）です。

北海道大学歯学部は、北海道大学の12ある学部の中で、最も新しい学部ですが、設立が昭和42年ということで、あと2年で半世紀にあたる50年を迎えるところまできました。50周年を記念した、もしくは50周年に関連した行事（式典、講演会、シンポジウムなど）の準備が始まっています。公開講座という形で、皆様への新しい歯科に関する情報発信も考えております。北海道大学大学院歯学研究科・歯学部のホームページなどのご案内させていただきます。ぜひ、皆様のご参加をお待ち致しております。

ご存知のように、歯科診療センターが移転して1年半が過ぎました。移転に際しては、皆様方のご理解により大きな混乱は見られませんでした。ご協力に感謝申し上げます。しかし、場所がわかりづらい、駐車場が遠い、地下鉄からの距離など、クリアすべき課題は多々ありました。前の歯科診療センターと比べ、残念ながら狭くなったことによる問題（待合場所やトイレ事情など）も見受けられました。物理的に困難な内容については、ご理解いただくことで対応させていた

できました。また、改善すべき内容は逐次対応しているところです。お気づきの点がありましたら、お知らせください。私たちも、新しい外来に慣れ、狭くはなりましたがこれまで以上に、皆様へ充実した歯科医療を提供しているところです。

歯学研究科・歯学部に関しては、ようやく耐震改修が終了し、この4月から全てのスペースを使用した、教育および研究がスタートしております。これまでになかったポリクリ実習室（病院実習前に学生相互で臨床に関連する技術・知識・態度を学ぶ場所）、PBL（Problem Based Learning）室（課題解決を意図した少人数で学ぶ場所）、多目的会議室（グループワークを基本とした場所）、探索医療研究室（臨床系および基礎系の教員が各自の専門性を活かし、協力して研究を行う場所）、学生のための自習室、国家試験対策室、リフレッシュラウンジ（私たちも使用します）などが実際に活用されています。これまでの歯学教育は、教員から学生への一方向の内容でした。知識だけでなく技術を教えるためには有効な方法でしたが、現在は、自分で切り拓いていく積極性、向学心、課題解決能力などが求められてきています。この点を意図した改修ができたと私たちは考えております。これらの環境を有効に活用して、新しい時代をリードする歯科医師、歯科医学研究者・教育者を養成していきます。横山歯学研究科長を中心に、歯学に関する教育、研究、臨床の一層の充実と発展を図り、先輩方のたゆまない努力による実績と伝統をさらに前進させながら、創立50年を迎えたいと思っています。

北海道大学歯学研究科・歯学部、北海道大学病院歯科診療センターを、今後ともよろしくお願いたします。

## 新任教授・准教授紹介



北海道大学大学院歯学研究科  
口腔機能学講座・冠橋義歯補綴学教室教授

山口 泰彦

### 【就任にあたり】

2014年6月に口腔機能学講座冠橋義歯補綴学教室教授に就任致しました。冠橋義歯補綴（ほてつ）というのは、う蝕などによる歯の部分的な欠損や異常な形態の歯に冠（クラウン）を被せて修復したり、抜けてしまった歯の部分をブリッジで隣在歯から橋渡しをして形態や機能を回復させる治療で、クラウンブリッジ補綴ともいいます。教育では、学生や研修医に対し、適切なクラウンやブリッジを作製し、患者さんの口腔内で良好に機能させるための講義や実習、研修を担当しています。

研究については、これまで、クラウンを被せた歯が再びう蝕（二次う蝕）にならないようにするにはどのような形に歯を削り、クラウンの辺縁を設定すればよいかという、二次う蝕の発生防止に関する研究、それから、生理的な顎の動きや咬み合わせに関する研究、さらには顎と咀嚼筋の機能に異常をきたした状態である顎関節症を研究してきました。現在は、歯ぎしり（ブラキシズム）にも取り組んでいます。ブラキシズムは補綴物の破損、歯の咬耗や破折、顎関節症、歯周病ほか、歯科の様々な疾患のリスクファクターとして注目されている疾患（習癖）です。研究では、ブラキシズムの有無や程度を患者さんの負担が少なく、より自然な状態で検査できる方法の確立を目指し、超小型のブラキシズム測定システムを開発してきました。そして、簡便で正確性の高いブラキシズムの診断手法に基づき、個々の患者さんに適した治療法を的確に選択できる治療、いわゆるオーダーメイド治療システムが確立できるよう努めているところで

す。

歯科補綴学の研究領域の幅は広く、当教室でも、このほかCAD/CAM、咬合の感覚に関わる脳機能の解析、睡眠時無呼吸症候群、顎補綴、顎変形症に関する研究などテーマは多岐にわたっています。CAD/CAMというのは、ご存知のようにComputer aided design/computer aided manufacturingの略で、これまで人の手で行われていたクラウンやブリッジの作製過程をコンピュータで設計し、機械で加工しようとするものです。技工作業の省力化、作製技術の均質化、使用材料の範囲拡大などのメリットがあります。さらに、CAD/CAMの技術では、歯型をとる印象採得という作業を口腔内のカメラ（スキャナー）で光学的に行うことも一部可能になっており、印象採得時の患者さんの負担軽減の面からも、今後の発展が有望な領域です。当教室は、歯科におけるCAD/CAM研究の先駆的な存在であり、今後も力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

臨床については、卒前における診療参加型臨床実習や卒後研修の充実を図りながらも、クラウンブリッジの難症例、ブラキシズム、睡眠時無呼吸症候群、難治性の咬合異常、咬合と関連する顎関節症、顎補綴、顎変形症、インプラント、高齢者、全身疾患を有する患者さんなど、大学病院に求められる高次の治療に対応できる体制をさらに充実させていきたいと考えています。

今後とも宜しくお願い申し上げます。



北海道大学病院  
高次口腔医療センター准教授

根 岸 淳

### 【略 歴】

- 1987年3月 北海道大学歯学部卒業（15期）
- 1991年3月 北海道大学大学院歯学研究科博士課程卒業  
学位取得（歯学博士）
- 1991年12月 北海道大学歯学部附属病院医員（第二保存科）
- 1995年8月 北海道大学歯学部附属病院助手（第二保存科）
- 2006年2月 北海道大学病院講師（口腔総合治療部）
- 2014年8月 北海道大学病院准教授（高次口腔医療センター）  
北海道大学病院医療安全管理部副部長 General Risk Manager

### 【就任にあたり】

2014年8月1日付けで高次口腔医療センター准教授を拝命いたしました根岸 淳と申します。専門は歯周病学と歯内療法学で、これらについて研究するとともに、学部学生への講義、臨床実習の指導、研修医の指導を行ってきました。また、歯周病治療を中心に、歯科診療センターにおいて患者さんの歯科治療もしています。歯周病は糖尿病の合併症の一つであり、これを治療することにより血糖コントロールが改善することが知られています。私は北大病院の糖尿病ケアサポートチームに所属しており、特に糖尿病を持つ患者さんの歯周病治療を専門に扱っています。

ところで私は准教授昇任と同時に北大病院の医療安全管理部副部長に就任し、現在ではこちらの仕事のほうが主となっています。医療安全管理部は、北大病院全体の医療における安全を推進する専門部門で、医師である部長、看護師長（2名）、薬剤師、歯科医師（副部長）の5名のジェネラルリスクマネージャー、診療録管理士、事務職員（2名）計8名で構成されてお

り、患者さんが安心して安全な医療を当院で受けられるよう、各種の業務を行っています。例を挙げると、院内各病棟及び外来を訪問して安全管理状況を検討したり、職員の医療安全研修を企画・運営したりする他、病院各科から提出されるインシデントレポートのチェックと検討、重大インシデント（事故には至らないいわゆる「ヒヤリ・ハット」や医療事故）の調査・分析や対応などもあります。私は昨年8月までは歯科の範囲内でしか働いていなかったため、少々荷が重い業務もありましたが、他の医療安全管理部員の助けを借りてなんとか勤めています。

近年、大きな病院における医療事故の報道が多くなされており、医療に対して不安を抱いている患者さんも少なからずいらっしゃると思います。北大病院を信頼して受診された患者さんが安心して医療を受けられるよう、医療安全の推進に関わっていく所存です。今後とも、宜しくお願い申し上げます。



北海道大学大学院歯学研究科  
口腔病態学講座・細胞分子薬理学教室准教授

吉村善隆

### 【略歴】

平成2年3月 北海道大学歯学部卒業  
平成2年4月 北海道大学歯学部助手（歯科薬理学講座）  
平成7年12月 博士（歯学）（北海道大学）  
平成11年8月～平成11年11月 米国ペンシルベニア州立大学医学部（S. Joyce 准教授）博士研究員  
平成11年12月～平成13年8月 米国バンダービルト大学医学部（S. Joyce 准教授）博士研究員  
平成12年4月 北海道大学大学院歯学研究科助手（細胞分子薬理学教室）  
平成14年3月～9月 米国バンダービルト大学医学部（S. Joyce 准教授）博士研究員  
（平成14年6月～9月 米国ジャクソン研究所（D.C. Roopenian博士）客員博士研究員として出向）  
平成19年4月 北海道大学大学院歯学研究科助教（細胞分子薬理学教室）  
平成26年11月 北海道大学大学院歯学研究科准教授（細胞分子薬理学教室）

### 【就任にあたり】

このたび平成26年11月1日付けで北海道大学大学院歯学研究科細胞分子薬理学教室 准教授を拜命いたしました。

私は平成2年に北海道大学歯学部を卒業後、薬理学を専門として、現在に至っております。出身は札幌市で、倶知安町、岩見沢市、砂川市で生活し、北海道滝川高等学校を卒業しております。

歯学部における薬理学とは、歯科治療において使用する薬を学ぶだけではなく、医科などの治療で使われている薬が歯科治療において、どのように影響するのかを理解する必要があります。したがって、歯科治療では使用しないものも含めて薬の全般に関する知識が必要となる教育分野になります。

研究面では、骨に関する研究を行っております。骨は、骨を形成する骨芽細胞と骨を吸収する破骨細胞との働きによって、骨の形態や機能を維持しています。このバランスが崩れ、骨を吸収する破骨細胞の働きが優位になると、骨粗鬆症や歯周病(歯槽膿漏)などが生じます。

また、骨は多くのメカニカルストレス（重力などの力学的な刺激）を受けています。宇宙空間で重力がかからない状態や寝たきり状態などで運動による負荷が骨にかからなくなると、骨が脆くなってきます。歯科の分野でもメカニカルストレスは重要です。歯が抜けてしまうと歯茎が痩せてきます。これは歯を支える骨の喪失(骨が吸収してしまうこと)が原因です。噛むことによって力が加わっていた、歯を支える骨に力が加わらなくなったことに関係しています。さらに、病気ではありませんが、歯科矯正治療においても、骨を作る骨芽細胞と骨を吸収する破骨細胞との働きが重要になります。矯正力というメカニカルストレスを加えることで、歯を支える骨の吸収と形成とを促進することによって、歯を移動させ、咬み合わせを良好にします。薬理的な視点から、このような骨に関する研究を大学院生とともに行っております。

今後も教育・研究を通してリサーチマインドを持った歯科医師を育てていきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

## 学会賞受賞

受賞者：浅香卓哉、秦 浩信、宮腰昌明、佐藤 明、佐藤 淳、北川善政  
 (口腔病態学講座 口腔診断内科学教室)

受賞名：優秀ポスター賞

受賞演題名：FDG-PETを用いたビスホスホネート関連顎骨壊死に対する高圧酸素療法の有効性の評価

学会名：第59回 日本口腔外科学会総会・学術大会  
 (2014年10月17日～19日、千葉)



この度、2014年10月17～19日に開催された第59回 日本口腔外科学会総会・学術大会にて優秀ポスター賞を頂きました。本研究は、口腔内科と医学研究科核医学教室との共同研究であり、北川教授が確立された土台に、医局の先生方が着実に実績を積み重ねてきたものを、私が代表して発表したに過ぎず、当科全体への受賞と考えております。このような機会を与えてくださった北川教授、当科医局および核医学教室の先生方には心から感謝申し上げます。

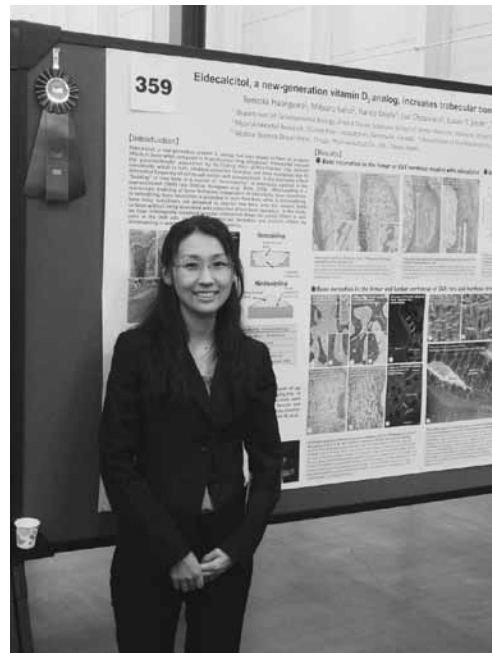
既にご存知のごとく、ビスホスホネート関連顎骨壊死は、まだ病態が完全に把握されておら

ず、治療も非常に困難な疾患です。本研究は、同疾患の客観的な評価方法としてFDG-PETを用いた炎症状態の定量評価が可能であることを明らかにし、またこれまでにその効果について不明であったビスホスホネート関連顎骨壊死に対する高圧酸素療法の有効性を明らかにしました。もちろん高圧酸素療法単独では十分な治療は望めませんが、少なくとも外科的な腐骨除去術への併用には有効性が高いと考えられます。

本研究は現在も継続中であり、さらに症例を蓄積し、より詳細な検討を行いたいと考えております。

受賞者：長谷川智香（硬組織発生生物学教室）  
 受賞名：第34回日本骨形態計測学会 若手研究者賞  
 受賞演題名：卵巣摘出カニクイザルにおけるエルデカルシトールの効果  
 —組織化学的検索—  
 学会名：第34回日本骨形態計測学会

受賞者：長谷川智香（硬組織発生生物学教室）  
 受賞名：ASBMR 2014 Annual Meeting Young Investigator Travel Grant  
 受賞演題名：Eldecalcitol, a new-generation vitamin D3 analog, increases trabecular bone via  
 “minimodeling” in ovariectomized cynomolgus monkeys.  
 学会名：The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR) 2014 Annual Meeting



この度、第34回日本骨形態計測学会より若手研究者賞を、アメリカ骨代謝学会（ASBMR）よりYoung Investigator Travel Grantを戴きました。これらの学会では、骨粗鬆症治療薬である活性型ビタミンD3製剤（エルデカルシトール）の効果をカニクイザルにて検索した結果について報告致しました。エルデカルシトールは日本で開発された骨粗鬆症治療薬で、ビタミンD充足率の低い日本人の骨粗鬆症患者さんには特に効果が期待されるものです。骨粗鬆症治療薬の一つであるビスフォスフォネート製剤は、破骨細胞のアポトーシスを誘導することで骨吸収を抑制します。しかし、同時に骨形成を行う骨芽細胞の活性を抑制するために骨形成も抑制されることが知られています。一方、ラットを

用いた我々の過去の検索から、エルデカルシトールは破骨細胞の数および機能を低下させるものの、前骨芽細胞から骨芽細胞への分化促進、骨芽細胞の基質合成能を亢進させることで骨量を維持する可能性が推測されました。また、エルデカルシトールは、骨吸収に依存しない骨形成である“ミニモデリング”を誘導することを明らかとしてきました。本研究において、エルデカルシトールを、よりヒトに近い動物であるカニクイザルに投与したところ、ラットと同様に、破骨細胞による骨吸収の抑制とミニモデリングによる骨形成が誘導されることが示唆されました。今後、これらの作用機序について、さらなる検索を進めてゆきたいと思っております。これらの仕事は、国内外の多くの共同研究



者の先生方、そして所属する硬組織発生生物学教室の諸先生方の御協力の元、遂行することができました。この場をお借りして、御指導なら

びに御支援下さったすべての皆様に心より御礼申し上げます。

受賞者：佐藤 淳（口腔病態学講座口腔診断内科学教室）

受賞名：ポスター賞

受賞演題名：FMISO-PET reflects the ability of cell proliferation in oral squamous cell carcinoma

学会名：第12回未来創薬・イノベーション拠点形成国際シンポジウム



2014年9月4～5日に北海道大学大学院医学研究科のフラテで開催されました「第12回未来創薬・イノベーション拠点形成国際シンポジウム」でポスター賞をいただきました。演題名は「FMISO-PET reflects the ability of cell proliferation in oral squamous cell carcinoma」で、口腔扁平上皮癌におけるFMISO-PETで評価した低酸素環境と細胞増殖活性の関連を明らかにするといった内容の臨床研究です。参加動

機は共同研究をしていただいている核医学教室の先生方からのお勧めでした。授賞式で核医学教室の玉木教授からきれいなクリスタルガラスの楯をいただき、今も自宅の机の上に飾っております。それをみる度に「まだまだ頑張らなくては」という気持ちになります。お世話になりました医療イノベーション事業支援室の皆様がこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

受賞者：柳 あさこ（北海道大学歯学部43期卒 歯科放射線科研修医）  
受賞名：ペンハロー賞



長崎国体にて

ペンハロー賞は学生の課外活動の充実・活性化を目的として設けられた賞です。この度、平成26年度国民体育大会北海道東北ブロック予選優勝という成績に対し北大ペンハロー賞を頂き、大変光栄に思います。

ライフル射撃競技とは制限時間内に決められた弾数を静止した的に撃ち、合計点を競うスポーツです。5キロ程ある銃を持ち続け10点（0.5mmの点）を狙い続けるため、筋力や技術はもちろんのこと集中力やメンタルといった要素も重要視されます。その奥深さに魅了され、大学入学時より4年間北海道大学体育会ライフル射撃部に所属しました。全日本選手権や学生選手権（インカレ）等の出場権を得て全国の射撃場を巡り、平成24年3月ドイツ射撃学校にて強化合宿の機会にも恵まれました。同年8月全国国公立ライフル射撃選手権にて個人優勝およ

び団体優勝という成績を収め学生射撃を引退しました。その後北海道ライフル射撃協会に移籍し、2年前から国民体育大会に北海道代表として出場しております。本選成績は9位、最後踏ん張ることができず入賞ラインに届かない自分に未熟さを感じています。現在、多くの方からご支援を頂いて競技活動を継続しており、早く結果を出し感謝の気持ちを形に表したいと焦心に駆られることも多々あります。毎日実射練習をすることは出来ませんが常にハイパフォーマンスを維持し、集中して全力で物事に取り組む姿勢こそ真の総合的トレーニングであると信じて成績向上のため日々邁進しております。今後は後進の育成、競技普及事業等も視野に入れ、自身の成績向上のみならず競技者として社会に貢献できることを模索していきたいと思っております。

## 歯学研究科・国際歯科部門の開設にあたって



北海道大学大学院歯学研究科・国際歯科部門

有馬 太郎

平成27年2月、北海道大学大学院歯学研究科に国際歯科部門が立ち上がりました。これは国立大学が重点を置いている“グローバルリゼーション”と“イノベーション”を推進していく上でもっとも必要な国際社会との連携をサポートすることを目的としています。以下に本部署の役割について簡単にお話したいと思います。

学部教育としては国際歯科学および英語の講義を担当するとともに新渡戸カレッジを含めて海外留学の支援、また海外からの留学生に対しては北大における修学支援を行います。また学部教育の国際化と銘打ち、海外の歯学教育先進国へ出向き、視察し、歯学教育のアイデアを輸入したいと思います。例えば大学間交流先であるウメオ大学は学部教育が整っており、特にファントム実習（マネキンが「痛い」と言ったり、泣いたり、臨床に近い状況を作る）設備が整っています。

大学院生教育としては、共通科目である「口腔生物学と医口腔生物学（Oral Biology and Medicine）」を担当するとともに、大学院生の海外留学支援を行います。また

- ・海外の著名研究者の招へい
- ・海外の著名研究室へ学生・教員の派遣
- ・海外のランキング上位大学との共同研究と大学交流姉妹校締結へ向けた働きかけ

を行うことにより歯学研究科の国際化を支援します。

教育・研究と比較すると臨床の国際化は重要度がやや低くなると思われれます。この理由として保険制度の縛りが挙げられます。わが国における歯科治療内容・範囲はこの保険制度に左右されます。保険制度の各国間での違いを調査し、わが国の保険制度がわれわれの福祉、健康増進にふさわしいものであるか、また他に向上する方法があるか検討します。

国際歯科部門とは「歯学の国際化とは何か？」について新たに考え、「国際歯科学」という分野を構築する部門です。国際社会において主体的に行動できる人材の育成をすることを目的とし、北海道大学歯学部を中心に地域の国際教育を推進して行くにふさわしい各団体を積極的に活用しつつ、グローバルな課題や地域の特性を生かした取り組み、モデルカリキュラムの開発等の実践研究を行います。そしてこの分野を国内に先駆けて確立・発信し、リーダーシップをとりたいと考えます。国際化とは「グローバルイゼーションとイノベーション」という海外で行われている既存アイデアの輸入をすることではなく、北海道大学発の新規「真のグローバル化」について研究していくことです。海外で行われていることを勉強することは良いことではありますが、これをただ真似することではなく、海外の良いアイデア・手法が日本、特に北海道の風土・文化にあっているかを吟味し、ふさわしい形で導入したいと思います。

## 部局間交流協定調印式 ～韓国・江陵原州大学校歯科大学～

4月20日午後4時30分より歯学研究科・歯学部応接室において歯学研究科と江陵原州大学校歯科大学との間で部局間交流協定調印式が執り行われました。横山研究科長とKo学部長が終始和やかな雰囲気の中、協定書に署名を行いました(写真1)。調印式には当研究科からは横山研究科長以下10名が、江陵原州大学校歯科大学からはKo Seong-Hee学部長以下3名が、また来賓として北大ソウルオフィスの車所長が出席されました(写真2)。調印後、歯学部講堂において第359回北海道歯学会が開催され、江陵原州大学校歯科大学のCho Kyung-Mo教授より江陵原州大学校についてビデオによる分かりやすい紹介が行われました。この後、研究科主催の夕食会が開催され、出席者全員が今後の両大学間の学生交流に向けて緊密な連絡を取り合うことを確認しました。

今回の部局間交流協定は昨年10月に韓国・江陵原州大学校で開催された北大交流デーに歯学研究科・歯学部から私・土門と歯科保存学教室

の星加助教が出席し、その際に今回の部局間交流協定が話題になりました。この江陵原州大学校訪問に関しては次のような伏線があります。

来年度の歯学部入学者から新しいカリキュラムが適用となります。このカリキュラムでは各学年は現在のような2学期制ではなく4学期制となります。中でも3年次第4クォーターと5年次第3クォーターは全て選択科目となり、このクォーターでは学生が海外留学も選択可能となります。現在、スウェーデン・ウメオ大学歯学部、デンマーク・オーフス大学歯学部、韓国・全北大学歯学部とは大学間交流協定を締結しており、学生間の活発な交流が行われています。今回の部局間交流協定により、歯学部学生は海外留学において選択肢が一つ増えることとなります。今回の調印式をスタートとし、今後、北大から江陵原州大学校へ、そして江陵原州大学校から北大へと、若さに溢れた学生達が国際交流を活発に行うことを願っています。

(文責：土門 卓文)



写真1 調印式前 前列左がKo教授  
右が横山研究科長



写真2 調印式後 後列右から3番目が  
ソウルオフィス車所長

## 北海道大学ホームカミングデー 2014実施

歯学研究科・歯学部では「歯学研究科・歯学部の現状報告ならびに見学会」として、本研究科所属の教員による現状報告及び北大病院歯科診療センターの見学を企画しました。

歯学部講堂で開催された現状報告会では、初めに八若保孝副研究科長・副学部長が歓迎の挨拶を述べた後、スライドを使い歯学部の現況報告等についての紹介を行いました。

引き続き、飯田順一郎副病院長（歯科担当）による歯科診療センター紹介が行われ、その後、歯科医療及び研究の最新トピックスについて、本研究科所属の11名の教員が現状報告を行いま

したが、参加者はメモをとるなどしながら、各教員の説明に熱心に聞き入っておりました。

希望者を対象に行われた北大病院歯科診療センターの見学では、高山芳幸講師の案内で、昨年8月末に完成、同10月1日から診療を開始した歯科外来新棟を見学しました。30分ほどの内覧ツアー中、参加された卒業生らは高山講師の説明を聞きながら、様々な質問をし、最新の診療設備及び機器等を興味深く見ておりました。

歯学研究科・歯学部の現状報告ならびに見学会は、予定時間を超えて行われ、盛会のうちに終了いたしました。



高山講師の説明を聞く参加者



八若副研究科長による近況報告

## 市民公開特別講座「食事はどうして楽しいの？」を開催

歯学研究科では、10月19日（日）9時30分から13時00分まで歯学部講堂において、市民公開特別講座「食事はどうして楽しいの？」を開催しました。

同講座では、食事を楽しくする要素について、5名の講師が講演を行いました。英語の講演もあり、同時通訳の機器を使用しての日英同時通訳を実現しました。

始めに、北海道大学病院兼平孝講師から「咀

嚼の重要性」について講演があり、次にデンマークオーフス大学Peter Svensson教授から「Taste and function」についての講演、北海道歯科衛生士会原田晴子理事から「唾液の役割」についての講演、スウェーデンカロリンスカ研究所Mats Trulsson教授から「The enjoyment of oral mechanosensation」についての講演があり、最後に北海道大学歯学研究科上田康夫講師から「CAD/CAM」についての講演が行われました。

道民カレッジ連携講座であった為一般市民の方の参加も多く、48名の方が参加されました。本研究科では、今後も研究成果の地域社会へ

の還元の一環として、道民カレッジ等に参加し、市民公開特別講座を企画・実施する予定です。



Peter Svensson教授の講演



兼平講師の講演

## 歯学研究科で防災訓練を実施

歯学研究科では10月29日（水）に防災訓練を実施しました。

今回の訓練は、A棟2階研究科長室兼応接室から出火したとの想定で、自衛消防隊長である横山敦郎歯学研究科長の指揮により、通報連絡係、避難誘導係、消火係、救護係、防護措置係の各担当に分かれ、現場の確認、消防署への通報、非常放送、避難者誘導、消火活動等の訓練

を実施し、学生・職員（大学病院職員を含む）及び工事業者等約180名が参加しました。

訓練終了後、横山研究科長から「今回の訓練は順調に実施できた。災害時にはこの訓練を思い出して行動して欲しい。」との講評がありました。

（歯学研究科・歯学部）



消火器操作訓練の様子



横山研究科長からの講評

## 歯学研究科で「動物供養祭」を挙

歯学研究科では、11月27日（木）午後4時30分から、学部会議室において、動物供養祭を執り行いました。供養祭は、過去1年間に歯学教育・研究のため実験に供された動物（ラット、マウス計2,182体）への感謝と追悼のために毎年実施しており、教職員、学生等の動物実験関係者約30人が参列しました。

供養祭では、最初に横山敦郎歯学研究科長か

ら挨拶があり、次いで動物実験委員会委員長の柴田健一郎教授から、歯学研究の進歩に尊い命を捧げて下さった多数の実験動物の御霊の安らかなることを願う旨の「祭文（さいもん）」が捧げられ、最後に参列者全員により献花が行われました。

（歯学研究科・歯学部）



参列者に挨拶する横山研究科長



「祭文」を読み上げる柴田委員長



献花する参列者

## C棟改築完了

D棟に引き続きC棟も2014年7月に耐震補強に伴う改築が完了しました。1階にはPBL

（Project-Based Learning）の部屋が8室、北大生協の売店とリフレッシュラウンジ、国家試

験対策室、自習室、クラブロッカー室、2階にカンファレンスルーム、臨床研究室、3階に多目的会議室、探索医療研究室などが新しく新設されました。また、C棟にある講座の教室も一新され、2階には細胞分子薬理学教室、口腔機能補綴学教室、3階は冠橋義歯補綴学教室、歯科保存学教室、高齢者歯科学教室、4階は小児・障害者歯科学教室、歯周・歯内療法学教室、歯科放射線学教室、5階は、口腔分子生化学教室、

口腔分子微生物学教室、学術支援部、6階は硬組織発生生物学教室、口腔病理病態学教室、生体材料工学教室になりました。更衣室も充実され、学生更衣室と職員更衣室が完備されました。臨床実習室も充実し、8台のユニットを配置した2つのポリクリ室と20台の技工機を配備した技工室、臨床ゼミ室2室、スキルラボができました。

(文責：金子 知生)



北大生協歯学部売店



リフレッシュラウンジ



国家試験対策室



自習室



多目的会議室



第1ポリクリ室



## 2015年度新入生合宿

### 合宿研修を終えて

歯学部4年 田代 恵 梨

新入生合宿が4月に学友会の企画のもと、ルスツリゾートにおいて行われました。参加する前には、新入生はどんな人たちなのだろうか、仲良くなれるだろうか、との不安をもっていました。それも杞憂に終わり、何事にも積極的に元気な一年生と活気のある上級生が楽しく交流しました。バスの中での寮歌指導をはじめ、新入生ガイダンス、部活動紹介、交流会、レクリエーションなどの多くの企画を通し、一年生のガイドをするとともに、性別や学年、部活など様々な壁を越えて親睦を深めることができましたと思っています。

グループワークを通じて真剣に飲酒について

考えることで、一年生は未知の世界である飲み会を垣間見ることができたり、意見をまとめ、みんなの前で発表したりする機会も作られており、ただ楽しく盛り上がるだけではなく、一歩踏み込んだ仲間意識も生まれたのではないのでしょうか（写真）。

学友会の方々の巧みなリードのもと、学生によって作り上げられた合宿でしたが、大変充実したものとなっていました。新しく仲間入りした一年生、合宿によって仲良くなれた同輩・先輩とともに、これからもさらに歯学部を盛り上げていきたいと思えた2日間でした。



## 歯学研究科・教室紹介

昨年の広報誌から新しく「教室紹介」のコーナーが始まりました。このコーナーでは歯学研究科内の教室を取り上げ、その教室ではどのような授業を担当し、どんな研究をしているのかについて紹介しています。今回は口腔分子微生物学教室と歯科矯正学教室です。

### 【口腔分子微生物学教室】

「健康な人の口の中に、なぜ多くの細菌が常在しているのだろうか？」

#### ＜研究内容＞

私達の口腔分子微生物学教室 (<http://www.den.hokudai.ac.jp/saikin/index.html>) では、「細菌のような微生物が侵入してきた時に、私達の体はどのように微生物を認識し、排除するのだろうか?」、また「口の中には、なぜ多くの細菌が生存しているのだろうか?」という二つの大きな疑問を解決するための研究を行っている。

**第一の疑問「細菌のような微生物が侵入してきた時に、私達の体はどのように微生物を認識し、排除するのだろうか?」**

細菌が感染すると感染部位が赤くなって腫れ(発赤・腫脹)、時には熱がでることは誰もが経験していることである。その理由は細菌が侵入してきた時に、侵入部位の細胞・組織から放出された低分子のタンパク質(サイトカイン)が発赤・腫脹ならびに発熱に関与していることは以前からよくわかっていたが、どのような機構でそれらのサイトカインが放出されるのかは長い間不明であった。1997年になってはじめてその疑問を解決するセンサータンパク質が発見され、Toll様受容体と命名された。すなわち、Toll様受容体が細菌の侵入を感知し、そのシグナルがサイトカインの遺伝子の発現を制御していることが明らかにされた。Toll様受容体の発見は2011年のノーベル医学・生理学賞を受賞した。Toll様受容体は細胞表面あるいは細胞内小

胞の膜に存在しているが、最近になって細胞質にもインフラマソームというセンサーが存在することが明らかにされた。私達は現在、Toll様受容体ならびにインフラマソームにより口の中の細菌が認識され、いろいろな炎症性サイトカインの放出が誘導されること、また、その機構を明らかにする研究を行っている。

**第二の疑問「口の中には、なぜ多くの細菌が生存しているのだろうか?」**

ヒトの口腔には約700種類の細菌が存在し、また、唾液1mlあたりに約1億個の細菌が含まれている。1日一人当たり約1リットルの唾液を飲み込んでいるので、私達は毎日約1000億個の細菌を食べていることになる。免疫系に異常がない場合には、口から食べた物には免疫応答は起こらないという、いわゆる経口免疫寛容が成立している。したがって、私達は「常に食べている口腔常在細菌に対して経口免疫寛容が成立しているのではないか」という仮説を立てた。すなわち、口腔細菌に対しては食物と同様に免疫応答が起こらないシステムが成立しているので口腔に常在できるものと考え、その機構を明らかにする研究を行っている。

字数の関係で詳細な研究内容の詳細な解説はできないが、私達の研究成果は評価され、これまでに歯科基礎医学会賞(引頭毅)、北海道歯学会賞(長谷部晃、伊従光洋、佐伯歩)、日本マイコプラズマ学会北本賞(柴田健一郎)等の14個の学会賞を受賞している。

(文責：長谷部 晃)

## 【歯科矯正学教室】

### ＜研究内容＞

歯並びが凸凹（叢生）であったり、上顎の前歯が大きく前に出ている（上顎前突）、あるいは反対に下顎の前歯が上顎より前に出ている（下顎前突）など、上顎、下顎の歯の咬み合わせに不具合がある状態を不正咬合といいます。歯科矯正学教室においては、この不正咬合を装置を使って、歯、あるいは顎を動かして治療する、いわゆる矯正治療に関しての研究、教育、治療を専門にしています。当教室では次のようなテーマで研究を行っています。

#### （１）機械的刺激と生体反応（適切な矯正力の解明）：

矯正装置で歯が動く背景には、歯の周囲を取り巻く骨（歯槽骨）が形を変えなければなりません。そこには力を感じて骨を作る細胞（骨芽細胞）や骨を溶かす細胞（破骨細胞）などの活発な働きが必要です。そこでどのような矯正力が適切に歯の移動を誘導するのかを明らかにする目的で、機械的刺激と生体反応についての基礎的な研究、また加齢によるその変化、糖尿病との関連などに関して研究しています。

#### （２）顎口腔機能に関する研究：

舌、口唇、頬、顎関節など口を取り囲む器官は、発音、咀嚼、嚥下など顎口腔機能に重要な役割を果たしています。また、これら口を取り巻く器官の動きなどに異常があると不正咬合が生じる原因ともなります。当教室では、このような口腔周囲器官の異常について、またその異常を改善する方法などについて基礎的、臨床的研究を行っています。

#### （３）矯正歯科治療用材料の開発：

審美性にも優れた高性能の矯正用ワイヤーの開発、また新しい概念の接着材料の開発などを行っています。

#### （４）顎変形症に関する研究：

顔面や顎の成長の異常により、上顎・下顎の

位置が大きくずれてしまっている場合（顎変形症）には、歯を動かすだけでは正しい歯の咬み合わせを得る事ができないことがあります。このような場合には、手術して顎を動かす必要があります（外科矯正）。当教室ではこのような症状が出現する原因（特に遺伝的原因）の解明、また外科矯正の診断、治療法に関する基礎的、臨床的研究を行っています。

#### （５）唇顎口蓋裂に関する研究：

生まれながらに唇や上顎の骨（口蓋）などに欠損があり裂隙がある患者さんがいます（唇顎口蓋裂）。このような患者さんは歯並びや顔面骨格に不正が生じる事が多く、矯正歯科治療の対応が必要になります。当教室では唇顎口蓋裂を有する患者さんの治療法に関する臨床的研究、またラットを用いた基礎的研究などを行っています。

当教室は1970年4月に「歯科矯正学講座」として設置され、2000年4月の大学院重点化に伴い、「口腔機能学講座 歯科矯正学教室」と名称を変更しました。歴代の教授は入江通暢先生（1970～1975）、中村進治先生（1975～1999）、飯田 順一郎（1999～）です。現在は教員、医員、客員臨床医師、大学院生など総勢45人が常勤で活動しています。

当教室員は平成25年に新築された北大病院歯科診療センターの3階において、口腔外科、口腔内科等と同じ第三診療室で治療しています。一か月に1000人から1500人の患者さんが来院されますが、その内の約1/4が唇顎口蓋裂、更に約1/4が顎変形症の患者さんで、残りの患者さん（全体の約1/2）がその他の不正咬合の患者さんです。唇顎口蓋裂、顎変形症の患者さんの数が多く、特定機能病院としての役割を果たしています。

（文責：飯田順一郎）



凸凹（叢生）症例 矯正治療前



治療後



顎変形症症例 外科矯正治療前



治療後

## ウメオ大学訪問記

玉野 真里果

ウメオとは、スウェーデンの北部にある最大の都市であり人口10万人で3万人以上の学生が住んでいる。ウメオは北極の南400kmに位置するほど緯度が高く、この地域では稀にオーロラを見ることがある。これほど緯度が高い割に日中は0℃を超えることが多かった。スウェーデンは物価・税金が高く、生鮮食品とレストラン税は12%、その他の消費税とアルコール税などは25%である。スウェーデンの特徴的な文化にFikaというのがあり、1日に数回コーヒーやお茶、お菓子を食べながら仲間とコミュニケーションを楽しむ文化がある。スウェーデンでは特に若い人は皆英語を流暢に話す。スウェーデンでは9歳から英語を勉強し始めるようだ。家でテレビを付ければアメリカのテレビ番組がスウェーデン語の字幕付きで放送されている。スウェーデンは人口が少ないので歯科の教科書もスウェーデン語で書かれているものは少なく、スウェーデンの歯学部生は主に英語の教科書で勉強している。(写真1)

ウメオ大学歯学部の教育課程は5年間である。ウメオ大学の歯学部生は患者さんと接する時間が日本の歯学部生よりも圧倒的に多く、2年生の時から患者さんと接する機会がある。講

義ではウメオの学生が勉強している内容は日本の学生とあまり変わらないことがわかった。講義中は先生が話している途中でも学生が積極的に質問したり先生と生徒で議論が始まったりする。ウメオ大学には各階にStudent Clinicという診療室があり、ここで学生が患者さんの治療を行っていた。もちろん先生が診査・診断、治療中、カルテ記入の各段階でチェックを行う。先生が一方的に指示するのではなく、先生と生徒がディスカッションしながら治療を進めているようであった。大学では専門医が治療を行う完全な個室がいくつかあった。専門医が1日に診る患者さんは4人ほどである。専門医になるためには、歯学部を卒業して少なくとも2年間歯科医師として働いたあとに大学の専門医コースに入り3年間の教育を受けることになる。(写真2)

スウェーデンの薬局は、歯ブラシ（日本のものよりかなりヘッド部分が大きいの）、フロス、歯間ブラシ、デンタルケアガム、クロルヘキシジン（含嗽薬）などが充実していた。歯磨き粉のフッ素濃度は日本よりも高く1350ppmで（日本だと1000ppm以下と決められている）、フッ素タブレットやデンタルケアドロップなども



写真1



写真2

売っていて日本では珍しいものもあり興味深かった。(写真3)



写真3

ウメオ大学を訪問して、日本との歯科治療の違い(手順・方法・材料など)や歯科の社会的システム(主に保険など)を全てではないが知ることができた。日本との歯科治療の違いがたくさんあったのが面白かったし、国境を越えてできるだけ多くの手順・方法・材料・器具などを見聞きして知識として持っていれば、自分が患者さんを診察している時に幅広い知識の中からその患者さんにとって一番良い選択肢を挙げやすくなると思った。その意味でも海外に出て勉強するのは自分の視野を広げるためにも重要だと再確認できたと思う。

## ウメオ大学訪問記

北海道大学病院 研修医

柳 あさこ

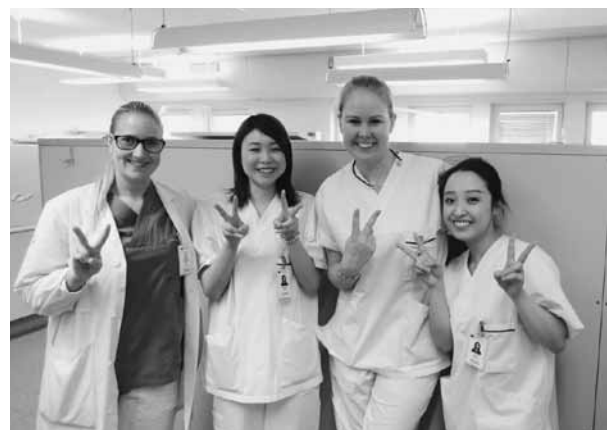
平成27年2月、玉野真里果さんと共にスウェーデンウメオ大学歯学部にて交換留学生として1ヶ月間留学する機会を頂きました。ウメオ大学は1965年に設立された国立大学であり、その前身は1956年にウメオに創立された歯科学校です。ウメオ大学は研究・教育の評価が非常に高く、留学生・現地学生の満足度調査において毎年スウェーデン国内1位を誇る人気の大学です。

スウェーデンの歯科教育制度は日本と大きく異なります。国家試験は存在せず、その課程(5年制教育)を修了すれば学位と歯科医師免許が与えられます。

ウメオ大学では留学生1人1人に対しBuddyというシステムがあり、Buddy student(同じクラスの学生)が実習や講義、日常生活をサポートしてくれました。

私たちは大学4年終盤の実習を見学しました。

彼らは1日に複数の患者を持ち、指導医の監督のもと、自らが立てた治療計画に基づいて治療を行っていました。内容は基本的な治療にとど



学生診療室にて

まらず自費治療や埋伏抜歯、歯周外科の手術などにも及びます。私たち北大生は学生時代に専門医の先生の治療を沢山見学することが出来ますが、彼らのカリキュラムには見学の機会があまり設けられておらず、治療の手技は主に教科書やファントム実習で学びます。そのすぐに自分に担当された患者で実践、という流れが一般

的だそうです。日本の教育制度との違いについて話し合ったとき、彼らは見学の機会が羨ましいと言っていました。「お互いの教育制度を足して2で割ったらいいのにね」といった話も帰国する頃には笑いながら出来るようになりました。

私は英語が得意ではありません。ウメオに到着して数日は聞き取ることに精一杯で、なかなか自分から発言できませんでした。しかし、級友が根気強く話しかけてくれたお陰で、支離滅裂な文法だったとは思いますが少しずつ会話が続くようになりました。級友はスウェーデンの齲蝕予防の歴史や、医療保険制度を含む充実した福利厚生など、沢山のことを丁寧に説明してくれました。実習中には日本での手技や材料、治療概念についての質問もあり、異なる部分については双方の利点や欠点について話し合ってお互いの視野を広げることができました。留学後半にはSpecialistsを見学する機会にも恵まれ、その頃には専門的な会話も理解できるようになり、具体的な治療に関して沢山のことを教えていただきました。

模型実習は3年生のクラスにてCAD/CAMの講義や支台歯形成、咬合採得の実習を行いました。

最終週は井上先生がウメオに到着され、細菌学の研究室見学やウメオ大学の先生方との会食やホームパーティがあり私たちも参加させていただきました。

ウメオにいた1ヶ月、ほぼ毎日自炊を行い、2日に1回のペースでジムに通いました。



模型実習にて



ジムにて

第2週の土日にはストックホルムに足を運びノーベル賞所縁の施設などを見学し、それ以外の休日は級友がホームパーティに招いてくれました。トナカイ(級友が狩猟で仕留めた)を使った料理や手作りのケーキを振舞ってもらい、夜まで語り合いました。どれも素敵な思い出です。

今回の留学を通して、日本とは異なる歯学教育を体感することができました。さらに沢山の出会いにも恵まれ、6年間の学生生活の締め括りとして本当に素晴らしい経験をさせていただきました。

最後に、ウメオでお世話になった先生方、級友、特に私のBuddyを務めてくれたOscar、そして井上哲先生はじめ留学の機会を私たちに与えて下さった先生方に心より御礼申し上げます。



ホームパーティにて

## 交換留学生のラボ体験

歯学研究科口腔分子生化学教室

佐藤 真理

歯学研究科口腔分子生化学教室では、2014年12月から2015年3月まで、北大の短期交換留学プログラムのベトナム人留学生、Lam Kha Vanさん（アメリカンネームで“ジェーン”と私たちは呼んでいました）を受け入れて一緒に実験をしていました。ジェーンはベトナム語と英語しか話せなかったため、ラボのメンバーは全員英語で会話をするようになりました。ただどかしい英語と身振り手振りでの会話でしたが、大事なのはコミュニケーションをとろうという気持ちと彼女を受け入れようとする姿勢でした。特に大学院生たち（2口外の箭原君、2補綴の浮田さん）がジェーンをサポートを一生懸命してくれて、実験のサポートのみならず、居酒屋に連れていったり女子会をしてくれたり、と自分の時間を割いて彼女が日本の文化を

味わう機会を作ってくれました。同じく私たちもジェーンから多くのことを学びました。まだまだ研究環境が整いきっていないベトナムからやってきた彼女の“実験したい！”という渴望はとても強く、授業が終わると毎日ラボで実験をして、土日まで実験をしにくることが多々ありました。真面目に真摯に実験に取り組むジェーンの姿は、大学院生のみならず教員の私たちにも強い刺激を与えてくれました。ジェーンが帰国する時はとても寂しくてラボのみんなが悲しみましたが、研究を続けていればまたいつか人生が交差して再会できるに違いないと思います、それぞれ頑張っています。ジェーンが帰国する時に、歯学部での思い出と感謝の文章を寄稿してくれたのでここで紹介させて頂きたいと思います。

I am Lam Kha Van, and I am a student of International University, Vietnam National University majoring in Biotechnology. As a half-year student exchange student in Hokkaido University, I am appreciated for receiving a great chance to learn and research in laboratory of Department of Biochemistry and Molecular Biology, Graduate School of Dental Medicine from December, 2014 to March, 2015.

The laboratory impresses me firstly by its theme of research that are aiming to support medical studies. Since it belongs to Dental Medicine, you may think that the studies would mainly relate to teeth. Study themes, however, are various including nervous system, bone, typical tissues, of which results would significantly support further studies like clinical research.

Frankly speaking, being a member of my laboratory is one of my most precious memories while living in Japan. Since the very first days, I have received a lot of help from Professor Tamura and Dr. Sato. Along with other graduates students, they spent time in teaching and training me in spite of busy schedule. I was encouraged and motivated in researching by enthusiasm and passion from my lecturers and other members. Their sharing and kindness implies that I was no longer a guest; I have become a member in here, in fact. Obviously our discussion were not only about experiments, we also spent time to talk, especially Vietnamese and Japanese culture or to take care to each other. It would be really sweet when you receive a small chocolate from others after a tiring working day, just to brace you up. And, we have it in here! Lecturers are devoted to students and we are appreciated it by try our bests to research and support each other. Thus, I enjoy every moments in my laboratory, where I can work, and inquire from my beloved teachers and seniors.



I would like to express my sincere gratitude to all members of my laboratory, especially for Professor Tamura, Dr Fujisawa, Dr Sato, Yahara san and Mayumi san, who gave me a chance not only to learn but also to love my time in Japan. Thank you!

Lam Kha Van (Jane)

(抄訳)

私はベトナム国際大学でバイオテクノロジーを専攻している大学生（学部3年生）のLam Kha Vanです。北海道大学の短期交換留学プログラム（HUSTEP）で、半年間北大の学生として過ごしました。そんな北大生活の中で、2014年の12月から2015年の3月まで北大歯学部の口腔生化学教室で研究を学ぶことができたことは私にとってとりわけ素晴らしい出来事でした。

ヒトの疾患研究に興味のあった私にとって、医学研究に触れることのできる研究テーマを与えてもらったことにまず感激しました。歯学部では歯の研究しかしていないのかというところではありません。私の研究テーマは将来的に臨床研究につながるような、神経、骨代謝、他の組織にまでわたる幅広いものでした。

本当に、口腔生化学教室のラボメンバーとして過ごした日々は、日本での生活で一番輝いている思い出です。研究室に加わった当初は、田村教授や佐藤助教にとっても助けてもらいました。それだけでなく、大学院生の皆さんも忙しい時間を割いて私に実験を教えてくれ、実験の練習にも付き合ってくれました。そうやって彼らと実験をしていく中で、私の研究に対する情熱が刺激され、どんどん伸びていきました。私

の面倒を見ながら一緒に実験をしているラボメンバーは、「あなたはただのお客様じゃなくて私たちのラボのメンバーなのよ」といつも態度で示してくれました。私は口腔生化学教室のメンバーのひとりとして受け入れられたのです！私たちは研究のことだけではなく、色々なおしゃべりをしました。ベトナムと日本文化のことを語り合い、お互いの文化をどう尊重し合うかを考えたりもしました。こうやって過ごす時間は、ハードな仕事に疲れた時、「元気を出して！」と誰かがそっとくれる小さなチョコレートのように、体にしみる甘い甘いものでした。先生方の指導は私たち学生を研究に熱中させ、先生方に対する感謝の気持ちを、私たち学生は自分の実験にベストを尽くしてサポートし合って研究することで示しています。私は口腔生化学教室で、愛する先生方や先輩大学院生たちと過ごした全ての瞬間を満喫しました。

私の研究室の全てのメンバーに心の底から感謝します。田村先生、藤沢先生、佐藤先生、箭原さん、真由美さん、単に日本で学ぶだけではなく日本での毎日を愛しく思えるような、こんなチャンスを与えてくれて本当にありがとうございました。

Lam Kha Van (Jane)



## 北海道大学病院歯科診療センターのご案内

最近、歯に関して気になることはありませんか？ もしあれば、北海道大学病院の歯科外来をご受診下さい（健康保険証をご持参下さい）。皆様の受診をお待ちしております。定期的な歯の健康診査や歯石の除去、歯に関する相談だけでも歓迎いたします。

なお、当院では平成26年6月から新来予約制を導入しております。受診される場合は原則として事前予約が必要です。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

### ○事前予約の方法

- ・電話にて予約する

〈予約受付専用電話番号〉 011-706-7733

〈予約受付時間〉 平日9時00分～16時00分（なお、翌日の予約受付は15時00分まで）

※矯正歯科については、電話を受けた7日以降の予約となります。

※紹介状に記載されている当該歯科医師の診察を受けられない場合もありますので、ご了承下さい。

※電話予約の際は以下の内容を確認させていただきます。

1. 氏名
2. 性別
3. 生年月日
4. 連絡先（住所・電話番号）
5. 症状（診療科）
6. その他（当院での受診歴や紹介状の有無など）

※紹介状がなくとも予約受診できますが、その場合、初診料の他に特定療養費制度に基づく特別の料金として、3,240円を自費（保険外料金）でお支払いいただくこととなりますので、ご了承願います。

### ○歯科診療センターのご案内

#### ☆第一診療室（2階）

予診室

#### ☆第二診療室（2階）

小児・障害者歯科（TEL 706-4355） 小児と知的障害者の歯科治療と口腔管理

#### ☆第三診療室（3階）

口腔内科（TEL 706-4349）

口の粘膜の病気の治療、口腔ケア

口腔外科（TEL 706-4349）

顎や口の中の外科治療

矯正歯科（TEL 706-4352）

歯ならびやかみ合わせの治療

歯科放射線科（TEL 706-4356）

放射線治療前後の口の中の管理

顎関節治療部門（TEL 706-4386）

顎関節症の治療

顎口腔機能治療部門（TEL 706-4388）

顎変形症、口蓋裂患者の総合的治療

口腔インプラント治療部門（TEL 706-4391）

人工歯根による歯の回復

歯科手術センター・歯科麻酔科（TEL 706-4345） 歯科治療のための麻酔管理、ペインクリニック

#### ☆第四診療室（4階）

歯冠修復科（TEL 706-4346）

新しい材料を用いた、むし歯の治療

義歯補綴科（TEL 706-4346）

入れ歯による、かみ合わせの回復

高齢者歯科（TEL 706-4358）

高齢者の歯の治療、口腔管理

口腔総合治療部

#### ☆第五診療室（5階）

予防歯科（TEL 706-4342）

定期歯科健診と予防処置、口腔ケア全般

歯周・歯内療法科（TEL 706-4343）

歯の根の治療、歯周病の治療

冠橋義歯補綴科（TEL 706-4343）

冠、ブリッジによる、かみ合わせの回復

口腔総合治療部

☆グループ系専門外来

口臭外来（予防歯科 TEL 706-4342）

歯ぎしり外来（歯周・歯内療法科 TEL 706-4343）

摂食、嚥下機能外来（口腔内科 TEL 706-4349）

審美歯科外来（歯冠修復科 TEL 706-4346）

口臭でお悩みの方

歯ぎしり、くいしばりでお悩みの方

摂食、嚥下障害のある患者さん

歯や歯ぐきの着色、変色の治療

## 編集後記

今年も広報誌第15号を皆様にお届けできることを嬉しく思います。

広報誌の編集作業では例年と同じにならないようにと・・・思いながらも、今年も似たような内容になってしまいました。今年も歯学部学生に原稿を依頼したところ快く引き受けてくれました。楽しい記事になり、また歯学部学生が様々な場所で活躍していることを頼もしく思います。原稿を送ってくれた学生の皆さんにはこの場をお借りして御礼申し上げます。

本誌に対する皆様からのご意見、ご要望などがございましたら、是非、当委員会までお知らせ下さい。  
(2015年7月 広報委員会委員長 土門卓文)

皆様のおかげで、この広報誌も15号を発刊できましたことを心より感謝しております。

歯学研究科の改築が完了し、新しい校舎で教員も学生も気持ちを新たに邁進することと思います。また、歯学研究科・歯学部もグローバル化に向け変革が進みつつあります。その中で新しい情報を発信していくことは重要であり、少しでも貢献ができればと思いつつ努力しております。また、歴史を残すという役割もあり今年の出来事など振り返ってもらい、思いを寄せて頂ければ幸いです。  
(広報委員会編集人 金子知生)

3年前のD棟の改築、昨年の歯科診療センターの新築に続いて、C棟が昨年7月に耐震補強に伴う改築が終了しました。本文でも紹介しましたが、1階にはPBL (Project-Based Learning) の部屋が8室、新しい売店(北大生協)とリフレッシュラウンジ、国家試験対策室、自習室、クラブロッカー室、2階にカンファレンスルーム、臨床研究室、2つのポリクリ室、技工室、臨床ゼミ室2室、スキルラボ、3階に多目的会議室、探索医療研究室など今までになかった施設が新しく新設され、研究科棟の雰囲気はすっかり変わってしまいました。

診療室が遠くなったこともあり、日中の研究科棟の廊下はあまり人気がなく、一抹の淋しさが感じられます。とはいえ、卒業生の皆様には、是非見学に来ていただきたいものです。

(広報委員会編集人 兼平 孝)



**北海道大学大学院歯学研究科・歯学部・歯科診療センター広報**

第15号 2015年(平成27年)8月発行  
北海道大学大学院歯学研究科・広報委員会

編集人 兼平 孝・金子 知生  
発行人 土門 卓文  
印刷・製本 株式会社正文舎